

下水道事業会計

1 業務実績 (表1参照)

年間総処理水量は、汚水と雨水を合わせて 17,049,696 m³ (1日平均 46,584 m³) であり、前年度に比較し 1,682,070 m³ (9.0%) 減少している。

年間有収水量は 10,461,311 m³ で、前年度に比較し 82,749 m³ (0.8%) 減少しており、有収率は 70.0% で、前年度に比較し 0.6 ポイント低下している。

水洗化率は、現在処理区域内人口 95,443 人に対し現在水洗便所設置済人口 95,433 人で 100.0% であり、前年度と変動はない。なお、現在処理区域内人口及び水洗便所設置済人口は、前年度に比較し 45 人 (0.0%) 減少している。

表1 業務実績

| 区 分 | 令和元年度 | 平成30年度 | 対前年度増減 | 増減率 (%) |
|----------------------------|------------|------------|------------|---------|
| 年間総処理水量 (m ³) | 17,049,696 | 18,731,766 | △1,682,070 | △9.0 |
| 年間汚水処理水量 (m ³) | 14,946,163 | 14,926,319 | 19,844 | 0.1 |
| 年間雨水処理水量 (m ³) | 2,103,533 | 3,805,447 | △1,701,914 | △44.7 |
| 1日平均処理水量 (m ³) | 46,584 | 51,320 | △4,736 | △9.2 |
| 年間汚泥処分量 (m ³) | 152,309 | 155,275 | △2,966 | △1.9 |
| 有収率 (%) | 70.0 | 70.6 | △0.6 | — |
| 年間有収水量 (m ³) | 10,461,311 | 10,544,060 | △82,749 | △0.8 |
| 水洗化率 (%) | 100.0 | 100.0 | 0 | — |
| 現在処理区域内人口 (人) | 95,443 | 95,488 | △45 | 0.0 |
| 現在水洗便所設置済人口 (人) | 95,443 | 95,488 | △45 | 0.0 |

- (注) 1 年間総処理水量：年間汚水処理水量と年間雨水処理水量の合計
 2 年間汚泥処分量：下水処理の過程で生じる汚泥の年間総量
 3 有収率：年間有収水量／年間汚水処理水量×100
 4 現在処理区域内人口及び現在水洗便所設置済人口は、各年度末の数値である。

2 予算執行状況（表2～表6，参照）

（1）収益的収入及び支出

ア 収益的収入

下水道事業収益は、予算額36億2,601万円に対し決算額は32億4,550万円（収入割合89.5%）で、予算額に比べ3億8,051万円の減額となった。

予算額に対し減額となった主な要因は、長期前受金戻入が当初の見込みより3億4,849万円下回ったことなどによるものである。

表2 予算執行状況（収益的収入）（単位：円，%）

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 予算額に比べ 決算額の増減 | 収入割合 |
|---------------|---------------|---------------|------------------|------|
| 下 水 道 事 業 収 益 | 3,626,012,000 | 3,245,500,528 | △380,511,472 | 89.5 |
| 営 業 収 益 | 1,810,815,000 | 1,776,653,455 | △34,161,545 | 98.1 |
| 営 業 外 収 益 | 1,815,097,000 | 1,466,039,895 | △349,057,105 | 80.8 |
| 特 別 利 益 | 100,000 | 2,807,178 | 2,707,178 | 著増 |

イ 収益的支出

下水道事業費用は、予算額30億1,988万円に対し決算額は27億8,108万円（執行率92.1%）で、不用額は2億3,880万円となった。

不用額の主なものは、芦屋下水処理場費が当初の見込みより1億5,418万円下回ったことなどによるものである。

表3 予算執行状況（収益的支出）（単位：円，%）

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 不 用 額 | 執 行 率 |
|---------------|---------------|---------------|-------------|-------|
| 下 水 道 事 業 費 用 | 3,019,881,000 | 2,781,083,442 | 238,797,558 | 92.1 |
| 営 業 費 用 | 2,755,985,000 | 2,529,011,371 | 226,973,629 | 91.8 |
| 営 業 外 費 用 | 251,696,000 | 251,687,139 | 8,861 | 100.0 |
| 特 別 損 失 | 2,200,000 | 384,932 | 1,815,068 | 17.5 |
| 予 備 費 | 10,000,000 | 0 | 10,000,000 | 0.0 |

（2）資本的収入及び支出

ア 資本的収入

資本的収入は、予算額8億4,427万円に対し決算額は5億7,538万円（収入割合68.2%）で、予算額に比べ2億6,889万円の減額となった。

企業債が予算額に対し2億1,590万円減額となった主な要因は、工事入札等により起債対象の工事請負費が当初の想定より下回ったこと及び次年度に工事を繰り越したことなどによるものである。

表4 予算執行状況（資本的収入）

（単位：円，％）

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 予算額に比べ 決算額の増減 | 収入割合 |
|-----------|-------------|-------------|------------------|-------|
| 資 本 的 収 入 | 844,271,000 | 575,382,600 | △268,888,400 | 68.2 |
| 企 業 債 | 563,300,000 | 347,400,000 | △215,900,000 | 61.7 |
| 他会計補助金 | 74,961,000 | 74,961,000 | 0 | 100.0 |
| 国庫補助金 | 206,000,000 | 153,000,000 | △53,000,000 | 74.3 |
| 固定資産売却代金 | 10,000 | 21,600 | 11,600 | 216.0 |

イ 資本的支出

資本的支出は、予算額16億2,306万円に対し決算額は13億4,547万円（執行率82.9%）、次年度繰越額1億6,390万円で、不用額は1億1,368万円となった。

翌年度繰越額は、建設改良費で入札不調のため工事の開始が遅れ、工期が次年度に繰越されたことによるものである。

不用額の主なものは、管渠整備費が当初の見込みより5,304万円下回ったことなどによるものである。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額7億7,009万円は、損益勘定留保資金7億3,335万円、当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額3,674万円で補填している。

表5 予算執行状況（資本的支出）

（単位：円，％）

| 区 分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 翌年度 繰越額 | 不 用 額 | 執行率 |
|-----------|---------------|---------------|-------------|-------------|-------|
| 資 本 的 支 出 | 1,623,055,000 | 1,345,471,446 | 163,900,000 | 113,683,554 | 82.9 |
| 建 設 改 良 費 | 779,566,000 | 512,474,428 | 163,900,000 | 103,191,572 | 65.7 |
| 固定資産購入費 | 3,150,000 | 2,658,734 | — | 491,266 | 84.4 |
| 企業債償還金 | 830,339,000 | 830,338,284 | — | 716 | 100.0 |
| 予 備 費 | 10,000,000 | 0 | — | 10,000,000 | 0.0 |

表6 建設改良費（工事）の主なもの

（単位：千円）

| 区 分 | 内 容 | 金 額 |
|---------|------------------------|---------|
| 改 良 工 事 | 芦屋下水処理場 場内ポンプ場脱臭設備工事 | 225,616 |
| 改 良 工 事 | 奥池町10街区先マンホールポンプ設置他工事 | 51,278 |
| 改 良 工 事 | 南宮町地内外污水管更生工事 | 24,460 |
| 改 良 工 事 | 茶屋之町地内外下水管布設替工事 | 16,240 |
| 改 良 工 事 | 南宮排水区（浜町6）雨水管布設工事（第5期） | 11,622 |

3 経営成績（表7，参照）

（1）下水道事業収益

下水道事業収益は、決算額31億5,637万円で、前年度に比較し1億2,573万円（4.1%）増加している。

ア 営業収益

営業収益は、決算額16億8,776万円で、前年度に比較し1,752万円（1.0%）減少しているが、これは主に下水道使用料収入が減少したことによるものである。

イ 営業外収益

営業外収益は、決算額14億6,601万円で、前年度に比較し1億4,065万円（10.6%）増加しているが、これは主に補助金が増加したことによるものである。

ウ 特別利益

特別利益は、決算額260万円で、前年度に比較し260万円（100.0%）増加しているが、これは過年度損益修正益が皆増したことによるものである。

（2）下水道事業費用

下水道事業費用は、決算額26億8,845万円で、前年度に比較し4,322万円（1.6%）減少している。

ア 営業費用

営業費用は、決算額24億6,576万円で、前年度に比較し334万円（0.1%）増加しているが、これは主に資産減耗費が増加したことによるものである。

イ 営業外費用

営業外費用は、決算額2億2,233万円で、前年度に比較し531万円（2.3%）減少しているが、これは支払利息及び企業債取扱諸費が減少したことによるものである。

ウ 特別損失

特別損失は、決算額36万円で、前年度に比較し4,125万円（99.1%）減少しているが、これはその他特別損失が皆減したことによるものである。

（3）営業損益，経常損益及び当年度純損益

営業損益について、営業損失は7億7,801万円となり、前年度と比較し2,086万円（2.8%）増加している。

経常損益について、経常利益は4億6,568万円となり、前年度と比較し1億2,510万円（36.7%）増加している。

当期純損益について、当期純利益は4億6,792万円となり、前年度と比較し1億6,895万円（56.5%）増加している。

表7 損益の状況

(単位：円，%)

| 区 分 | 令和元年度 | 平成30年度 | 対前年度増減 | 増減率 |
|---------------|---------------|---------------|-------------|-------|
| 下水道事業収益 | 3,156,371,372 | 3,030,643,787 | 125,727,585 | 4.1 |
| 営業収益 | 1,687,758,619 | 1,705,277,426 | △17,518,807 | △1.0 |
| 下水道使用料 | 954,435,458 | 972,597,052 | △18,161,594 | △1.9 |
| 受託事業収益 | 1,410,626 | 17,551,118 | △16,140,492 | △92.0 |
| 他会計負担金 | 719,781,000 | 713,175,000 | 6,606,000 | 0.9 |
| その他営業収益 | 12,131,535 | 1,954,256 | 10,177,279 | 520.8 |
| 営業外収益 | 1,466,013,514 | 1,325,366,361 | 140,647,153 | 10.6 |
| 補助金 | 502,233,000 | 380,216,000 | 122,017,000 | 32.1 |
| 長期前受金戻入 | 963,461,225 | 943,435,975 | 20,025,250 | 2.1 |
| 雑収益 | 319,289 | 1,714,386 | △1,395,097 | △81.4 |
| 特別利益 | 2,599,239 | 0 | 2,599,239 | 皆増 |
| 過年度損益修正益 | 2,599,239 | 0 | 2,599,239 | 皆増 |
| 下水道事業費用 | 2,688,450,696 | 2,731,668,824 | △43,218,128 | △1.6 |
| 営業費用 | 2,465,764,585 | 2,462,422,360 | 3,342,225 | 0.1 |
| 管渠費 | 166,348,516 | 156,362,455 | 9,986,061 | 6.4 |
| 芦屋下水処理場費 | 438,143,577 | 439,450,402 | △1,306,825 | △0.3 |
| 南芦屋浜下水処理場費 | 76,846,978 | 78,865,794 | △2,018,816 | △2.6 |
| 抽水場費 | 60,811,316 | 77,224,567 | △16,413,251 | △21.3 |
| 受託事業費 | 1,033,519 | 20,625,859 | △19,592,340 | △95.0 |
| 総係費 | 103,349,615 | 106,776,696 | △3,427,081 | △3.2 |
| 減価償却費 | 1,584,671,006 | 1,571,864,870 | 12,806,136 | 0.8 |
| 資産減耗費 | 34,560,058 | 11,251,717 | 23,308,341 | 207.2 |
| 営業外費用 | 222,329,692 | 227,638,628 | △5,308,936 | △2.3 |
| 支払利息及び企業債取扱諸費 | 179,196,682 | 196,651,669 | △17,454,987 | △8.9 |
| 雑支出 | 43,133,010 | 30,986,959 | 12,146,051 | 39.2 |
| 特別損失 | 356,419 | 41,607,836 | △41,251,417 | △99.1 |
| 過年度損益修正損 | 356,419 | 227,287 | 129,132 | 56.8 |
| その他特別損失 | 0 | 41,380,549 | △41,380,549 | 皆減 |
| 営業損益 | △778,005,966 | △757,144,934 | △20,861,032 | 2.8 |
| 経常損益 | 465,677,856 | 340,582,799 | 125,095,057 | 36.7 |
| 当年度純損益 | 467,920,676 | 298,974,963 | 168,945,713 | 56.5 |

(注) 表中の金額は、消費税及び地方消費税を含めないため、表2から表5までの決算額とは一致しない。

4 財政状態（表8及び表9，参照）

（1）資産

資産は、326億4,365万円で、前年度に比較し9億2,268万円（2.7%）減少している。

固定資産は、317億4,325万円で、前年度に比較し11億3,565万円（3.5%）減少しているが、これは主に構築物の減価償却によるものである。

流動資産は、9億40万円で、前年度に比較し2億1,297万円（31.0%）増加しているが、これは現金預金が増加したことによるものである。

（2）負債

負債は、272億2,875万円で、前年度に比較し13億9,060万円（4.9%）減少している。

固定負債は、87億9,674万円で、前年度に比較し4億7,821万円（5.2%）減少しているが、これは建設改良企業債が減少したことによるものである。

流動負債は、10億422万円で、前年度に比較し1億8,210万円（15.4%）減少しているが、これは未払金が減少したことによるものである。

繰延収益は、174億2,779万円で、前年度に比較し7億3,030万円（4.0%）減少している。

（3）資本

資本は、54億1,490万円で、前年度に比較し4億6,792万円（9.5%）増加している。

資本金は、21億9,740万円で、前年度に比較し2億9,897万円（15.7%）増加しているが、これは利益剰余金の組み入れによるものである。

剰余金は、32億1,750万円で、前年度に比較し1億6,895万円（5.5%）増加しているが、これは利益剰余金が増加したことによるものである。

表8 貸借対照表

(単位：円，%)

| 区 分 | 令和元年度 | 平成30年度 | 対前年度増減 | 増減率 |
|----------|----------------|----------------|----------------|-------|
| 資 産 | 32,643,651,026 | 33,566,334,188 | △922,683,162 | △2.7 |
| 固定資産 | 31,743,249,288 | 32,878,901,736 | △1,135,652,448 | △3.5 |
| 有形固定資産 | 31,728,227,071 | 32,863,147,097 | △1,134,920,026 | △3.5 |
| 土地 | 4,881,386,780 | 4,881,386,780 | 0 | 0.0 |
| 建物 | 1,469,392,975 | 1,434,346,020 | 35,046,955 | 2.4 |
| 構築物 | 23,080,739,244 | 23,889,088,228 | △808,348,984 | △3.4 |
| 機械及び装置 | 2,286,514,604 | 2,627,347,872 | △340,833,268 | △13.0 |
| 車両運搬具 | 2,962,582 | 2,649,823 | 312,759 | 11.8 |
| 工具器具及び備品 | 7,230,886 | 6,554,299 | 676,587 | 10.3 |
| 建設仮勘定 | 0 | 21,774,075 | △21,774,075 | 皆減 |
| 無形固定資産 | 15,022,217 | 15,754,639 | △732,422 | △4.6 |
| 施設利用権 | 15,022,217 | 15,754,639 | △732,422 | △4.6 |
| 流動資産 | 900,401,738 | 687,432,452 | 212,969,286 | 31.0 |
| 現金預金 | 789,687,931 | 576,430,509 | 213,257,422 | 37.0 |
| 未収金 | 110,713,807 | 111,001,943 | △288,136 | △0.3 |
| 負債・資本合計 | 32,643,651,026 | 33,566,334,188 | △922,683,162 | △2.7 |
| 負債 | 27,228,749,555 | 28,619,353,393 | △1,390,603,838 | △4.9 |
| 固定負債 | 8,796,736,559 | 9,274,941,726 | △478,205,167 | △5.2 |
| 企業債 | 8,787,507,572 | 9,270,735,726 | △483,228,154 | △5.2 |
| 引当金 | 9,228,987 | 4,206,000 | 5,022,987 | 119.4 |
| 流動負債 | 1,004,223,227 | 1,186,325,052 | △182,101,825 | △15.4 |
| 企業債 | 830,628,154 | 830,338,284 | 289,870 | 0.0 |
| 未払金 | 139,567,314 | 344,091,591 | △204,524,277 | △59.4 |
| 引当金 | 14,361,000 | 10,279,000 | 4,082,000 | 39.7 |
| 預り金 | 19,666,759 | 1,616,177 | 18,050,582 | 著増 |
| 繰延収益 | 17,427,789,769 | 18,158,086,615 | △730,296,846 | △4.0 |
| 長期前受金 | 19,308,309,001 | 19,095,119,500 | 213,189,501 | 1.1 |
| 収益化累計額 | △1,880,519,232 | △937,032,885 | △943,486,347 | 100.7 |
| 資本 | 5,414,901,471 | 4,946,980,795 | 467,920,676 | 9.5 |
| 資本金 | 2,197,396,493 | 1,898,421,530 | 298,974,963 | 15.7 |
| 剰余金 | 3,217,504,978 | 3,048,559,265 | 168,945,713 | 5.5 |
| 資本剰余金 | 2,749,584,302 | 2,749,584,302 | 0 | 0.0 |
| 利益剰余金 | 467,920,676 | 298,974,963 | 168,945,713 | 56.5 |

(注) 1 有形固定資産のうち、償却資産については直接控除方式によって表示している。

元年度減価償却累計額 … 建物 155,719,540 円，構築物 2,156,253,776 円，機械及び装置 838,685,628 円，
車両運搬具 1,529,762 円，工具器具及び備品 1,291,626 円

30年度減価償却累計額 … 建物 78,043,873 円，構築物 1,074,129,948 円，機械及び装置 417,439,660 円，
車両運搬具 764,881 円，工具器具及び備品 645,813 円

2 未収金は、貸倒引当金の額(元年度 5,470,647 円，30年度 4,737,393 円)を差し引いた後の額である。

【企業債の推移】

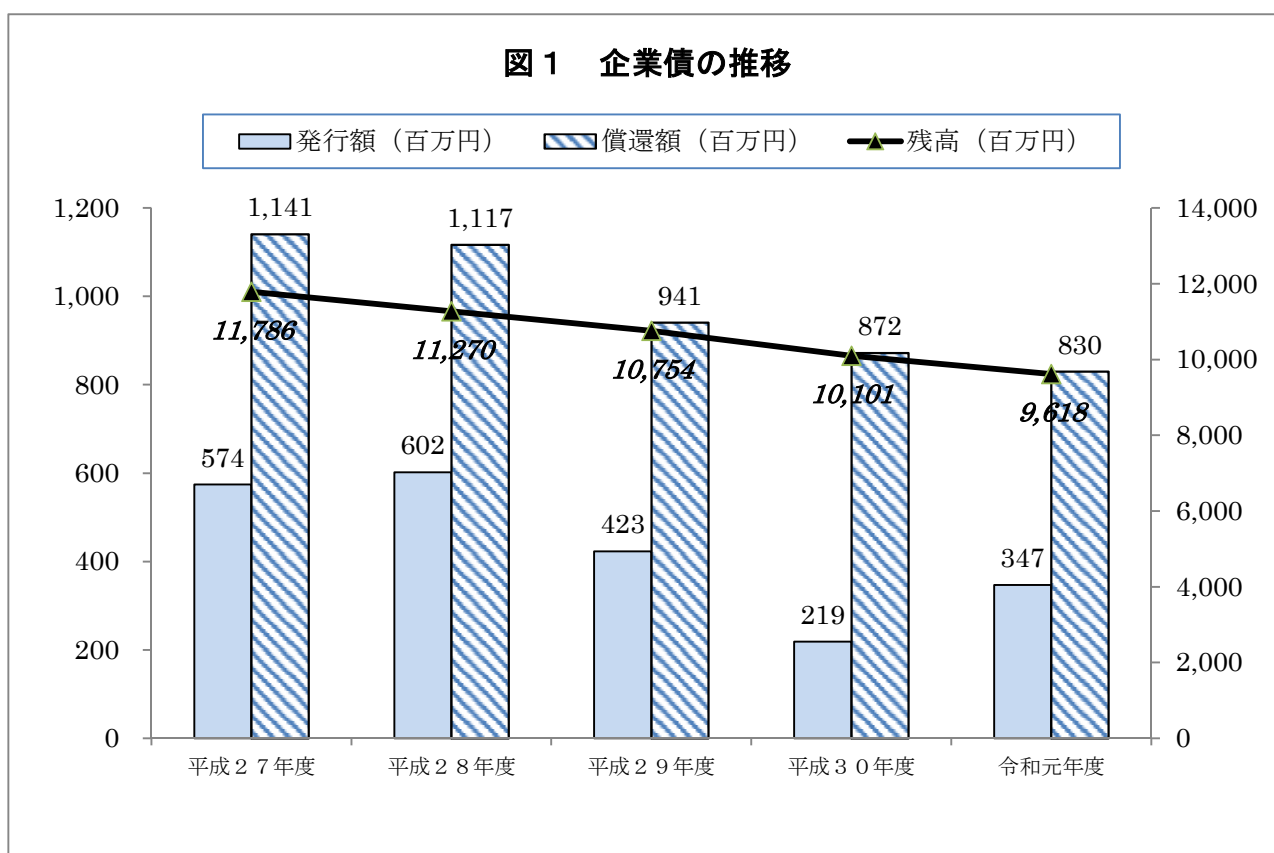
企業債の推移は、表9及び図1のとおりである。

表9 企業債の推移

(単位：千円)

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 発行額 | 574,200 | 601,900 | 424,600 | 219,200 | 347,400 |
| 償還額 | 1,141,216 | 1,117,494 | 940,958 | 871,790 | 830,338 |
| 残 高 | 11,785,615 | 11,270,021 | 10,753,664 | 10,101,074 | 9,618,136 |

図1 企業債の推移



(4) 資金収支(表10, 参照)

業務活動によるキャッシュ・フローは、9億4,661万円で、前年度に比較し未払金が減少したことなどにより4億4,444万円減少している。

投資活動によるキャッシュ・フローは、△2億5,041万円で、前年度に比較し有形固定資産の取得による支出が増加したことなどにより8,839万円減少している。

財務活動によるキャッシュ・フローは、△4億8,294万円で、前年度に比較し企業債による収入が増加したことなどにより1億6,965万円増加している。

この結果、当年度は2億1,326万円の資金が増加し、資金期末残高は7億8,969万円となっている。

表10 キャッシュ・フロー計算書

(単位:円)

| 区 分 | 令和元年度 | 平成30年度 | 対前年度増減 |
|---------------------------|---------------------|----------------------|---------------------|
| 1 業務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 当年度純利益 | 467,920,676 | 298,974,963 | 168,945,713 |
| 減価償却費 | 1,584,671,006 | 1,571,864,870 | 12,806,136 |
| 引当金の増減額(△は減少) | 9,838,241 | 19,222,393 | △9,384,152 |
| 長期前受金戻入額 | △944,201,404 | △937,032,885 | △7,168,519 |
| 支払利息及び企業債取扱諸費 | 179,196,682 | 196,651,669 | △17,454,987 |
| 未収金の増減額(△は増加) | △445,118 | 267,142,636 | △267,587,754 |
| 未払金の増減額(△は減少) | △204,524,277 | 164,411,821 | △368,936,098 |
| その他 | 33,350,819 | 6,464,804 | 26,886,015 |
| 小計 | 1,125,806,625 | 1,587,700,271 | △461,893,646 |
| 利息の支払額 | △179,196,682 | △196,651,669 | 17,454,987 |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 946,609,943 | 1,391,048,602 | △444,438,659 |
| 2 投資活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △478,280,630 | △362,711,457 | △115,569,173 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 20,000 | 0 | 20,000 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △114,607 | △180,987 | 66,380 |
| 補助金等による収入 | 227,961,000 | 200,864,000 | 27,097,000 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △250,414,237 | △162,028,444 | △88,385,793 |
| 3 財務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 企業債による収入 | 347,400,000 | 219,200,000 | 128,200,000 |
| 企業債の償還による支出 | △830,338,284 | △871,789,649 | 41,451,365 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △482,938,284 | △652,589,649 | 169,651,365 |
| 資金増減額 | 213,257,422 | 576,430,509 | △363,173,087 |
| 資金期首残高 | 576,430,509 | 0 | 576,430,509 |
| 資金期末残高 | 789,687,931 | 576,430,509 | 213,257,422 |

5 経営指標

(1) 経営の健全性及び効率性

ア 営業収支比率

この指標は、当該年度において、主たる営業活動から生じた営業収益と、それに要した営業費用とを対比して本業の状態を表すものである。

営業収支比率の推移

(単位：%)

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 芦屋市 | — | — | — | 69.1 | 68.4 |
| 類似団体平均値 | — | — | — | 83.6 | |

- (注) 1 営業収支比率 : (営業収益－受託工事収益) / (営業費用－受託工事費用) × 100
 2 類似団体平均値は、「地方公営企業年鑑(下水道事業)の下水道事業」の公共下水道における数値を引用している。令和元年度数値については、未公表。(以下の指標についても同様。)
 3 単年度の収支が黒字であることを示す 100%以上となっていることが必要である。
 4 数値が 100%未満の場合、単年度の収支が赤字であることを示しているため、経営改善に向けた取組が必要である。
 5 下水道事業は、平成 30 年度から地方公営企業法の財務規定等を適用しており、平成 29 年度以前と比較できないため、「—」と表記する。

イ 経常収支比率

この指標は、当該年度において、使用料収入や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表すものである。

経常収支比率の推移

(単位：%)

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 芦屋市 | — | — | — | 112.7 | 117.3 |
| 類似団体平均値 | — | — | — | 106.4 | |

- (注) 1 経常収支比率 : 経常収益 / 経常費用 × 100
 2 類似団体平均値は、総務省「地方公営企業等(下水道事業)決算経営比較分析表」の処理区域内人口規模 3 万人以上 10 万人未満で処理区域内人口密度 75 人/ha 以上かつ供用開始 30 年以上の数値を引用している。(以下の指標についても同様。)
 3 単年度の収支が黒字であることを示す 100%以上となっていることが必要である。
 4 数値が 100%未満の場合、単年度の収支が赤字であることを示しているため、経営改善に向けた取組が必要である。
 5 下水道事業は、平成 30 年度から地方公営企業法の財務規定等を適用しており、平成 29 年度以前と比較できないため、「—」と表記する。

ウ 累積欠損金比率

この指標は、営業収益に対する累積欠損金(営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補填することができず、複数年度にわたって累積した損失のこと)の状況を表すものである。

累積欠損金比率の推移

(単位：%)

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 芦屋市 | — | — | — | 0.0 | 0.0 |
| 類似団体平均値 | — | — | — | 0.5 | |

- (注) 1 累積欠損金比率：当年度未処理欠損金／(営業収益－受託工事収益)×100
 2 累積欠損金が発生していない0%であることが求められる。
 3 下水道事業は、平成30年度から地方公営企業法の財務規定等を適用しており、平成29年度以前と比較できないため、「—」と表記する。

エ 流動比率

この指標は、短期的な債務に対する支払能力を表すものであり、1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等の状況を表すものである。

流動比率の推移

(単位：%)

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 芦屋市 | — | — | — | 58.0 | 89.7 |
| 類似団体平均値 | — | — | — | 33.1 | |

- (注) 1 流動比率：流動資産／流動負債×100
 2 数値が100%以上あることが必要である。
 3 下水道事業は、平成30年度から地方公営企業法の財務規定等を適用しており、平成29年度以前と比較できないため、「—」と表記する。

オ 企業債残高対事業規模比率

この指標は、使用料収入に対する企業債残高の割合を表し、企業債残高の規模を表すものである。明確な数値基準はないが、適切な投資規模及び使用料水準であるか確認することが必要である。

企業債残高対事業規模比率の推移

(単位：%)

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 芦屋市 | — | — | — | 559.7 | 537.3 |
| 類似団体平均値 | — | — | — | 733.9 | |

- (注) 1 企業債残高対事業規模比率：(企業債現在高合計－一般会計負担額)／(営業収益－受託工事収益－雨水処理負担金)×100
 2 下水道事業は、平成30年度から地方公営企業法の財務規定等を適用しており、平成29年度以前と比較できないため、「—」と表記する。

カ 経費回収率

この指標は、使用料で回収すべき経費をどの程度使用料で賄えているかを表すものである。

経費回収率の推移

(単位：%)

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 芦屋市 | — | — | — | 110.6 | 108.2 |
| 類似団体平均値 | — | — | — | 94.6 | |

- (注) 1 経費回収率：下水道使用料／汚水処理費（公費負担分を除く）×100
 2 数値が100%を下回っている場合は、汚水処理に係る費用が使用料以外の収入で賄われていることを意味する。
 3 下水道事業は、平成30年度から地方公営企業法の財務規定等を適用しており、平成29年度以前と比較できないため、「—」と表記する。

キ 汚水処理原価

この指標は、有収水量1 m³当たりについて、どれだけの汚水処理費がかかっているかを表すものである。明確な数値基準はないが、投資の効率化や維持管理費の削減について、確認することが必要である。

汚水処理原価の推移

(単位：円)

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 芦屋市 | — | — | — | 83.4 | 84.3 |
| 類似団体平均値 | — | — | — | 131.2 | |

- (注) 1 汚水処理原価：汚水処理費（公費負担分を除く）／年間有収水量×100
 2 下水道事業は、平成30年度から地方公営企業法の財務規定等を適用しており、平成29年度以前と比較できないため、「—」と表記する。

ク 施設利用率

この指標は、施設・設備が一日に対応可能な処理能力に対する一日平均処理水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を表すものである。

施設利用率の推移

(単位：%)

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 芦屋市 | 86.7 | 80.2 | 73.6 | 70.3 | 70.3 |
| 類似団体平均値 | 86.7 | 80.2 | 73.6 | 70.3 | |

- (注) 施設利用率：晴天時一日平均処理水量／晴天時現在処理能力×100

ケ 水洗化率

この指標は、現在処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を表した指標である。

水洗化率の推移

(単位：%)

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 芦屋市 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 類似団体平均値 | 96.1 | 96.2 | 96.4 | 95.9 | |

(注) 1 水洗化率：現在水洗便所設置済人口／現在処理区域内人口×100

2 一般的に数値が100%未満である場合には、汚水処理が適切に行われておらず、水質保全の観点から生じる問題及び使用料収入の確保を図るための取組が必要である。

(2) 老朽化の状況

ア 有形固定資産減価償却率

この指標は、有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるか表示するもので、資産の老朽化度合を示している。

また、他の老朽化の状況を示す指標である管渠経年化率や管渠更新率の状況を踏まえ、分析する必要があり、施設の更新等の必要が高い場合には、更新等の財源の確保や経営に与える影響等を踏まえた分析を行い、必要に応じて経営改善の実施や投資計画等の見直しなどを行う必要がある。

有形固定資産減価償却率の推移

(単位：%)

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 芦屋市 | — | — | — | 5.3 | 10.5 |
| 類似団体平均値 | — | — | — | 8.4 | |

(注) 1 有形固定資産減価償却率：有形固定資産減価償却累計額／有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿価格×100

2 一般的に数値が100%に近いほど、保有資産が法定耐用年数に近づいていることを示しており、将来の施設の更新等の必要性を推測することができる。

3 下水道事業は、平成30年度から地方公営企業法の財務規定等を適用しており、平成29年度以前と比較できないため、「—」と表記する。

イ 管渠老朽化率

この指標は、法定耐用年数(50年)を超えた管渠延長の割合を示す指標で、管渠の老朽化度合を示している。一般的に数値が高い場合は、法定耐用年数を経過した管渠を多く保有しており、管渠の改善(更新・改良・維持)の必要性を推測することができる。

また、他の老朽化の状況を示す指標である有形固定資産減価償却率や管渠改善率の状況を踏まえ、分析する必要があり、管渠の改善の必要性が高い場合には、改善の財源の確保や経営に与える影響等を踏まえた分析を行い、必要に応じて経営改善の実施や投資計画等の見直しなどを行う必要がある。

管渠老朽化率の推移

(単位：%)

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 芦屋市 | — | — | — | 15.8 | 17.4 |
| 類似団体平均値 | — | — | — | 3.8 | |

- (注) 1 管路経年化率：法定耐用年数を経過した管渠延長／下水道布設延長×100
 2 下水道事業は、平成30年度から地方公営企業法の財務規定等を適用しており、平成29年度以前と比較できないため、「—」と表記する。

ウ 管渠改善率

この指標は、当該年度に更新した管渠延長の割合を示す指標で、管渠の更新ペースや状況を把握できる。

また、他の老朽化の状況を示す指標である有形固定資産減価償却率や管渠老朽化率の状況を踏まえ、分析する必要がある。管渠の改善の必要が高い場合には、改善の財源の確保や経営に与える影響等を踏まえた分析を行い、必要に応じて経営改善の実施や投資計画等の見直しなどを行う必要がある。

管渠改善率の推移

(単位：%)

| 区 分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 芦屋市 | 0.3 | 0.3 | 0.2 | 0.2 | 0.3 |
| 類似団体平均値 | 0.2 | 4.9 | 0.2 | 0.3 | |

- (注) 1 管渠改善率：改善（更新・改良・維持）管渠延長／下水道布設延長×100
 2 第4次芦屋市総合計画における各年度管路更新率の目標値：0.2%
 3 数値が1%の場合、すべての管渠を更新するのに100年かかる更新ペースであることが把握できる。

以上が下水道事業会計の決算状況である。

6 審査のまとめ

(1) 決算の総括

芦屋市下水道事業における令和元年度決算についてみると、業務実績においては、年間総処理水量が1,704万9,696 m^3 と前年度よりも168万2,070 m^3 （9.0%）減少し、有収率は70.0%と前年度よりも0.6ポイント低下している。また、当年度の処理区域内の人口は9万5,443人で、前年度より45人（0.0%）減少している。

次に、経営状況についてみると、本業の経営成績である営業損益は、営業損失が7億7,801万円と前年度より2,086万円増加したが、他方、経常損益では、経常利益が4億6,568万円と前年度より1億2,510万円増加した。これらの結果、当年度純利益は4億6,792万円と前年度より1億6,895万円増加した結果となっている。

次に、経営指標についてみると、営業収支比率は68.4%にとどまり黒字であることを示す100%を大きく下回ったが、経常収支比率は117.32%と黒字であることを示す100%を上回った。

このように経常収支が黒字となったのは、他会計補助金の5億223万円など営業外収益が14億6,601万円にのぼったからであり、この多額の営業外収益が7億7,801万円の営業損失を埋め4億6,792万円の当年度純利益をもたらしたものである。

次に、短期支払債務の支払原資についてみると、流動比率は89.66%と必要とされる100%を下回っているが、企業債償還金の財源については次年度で予算措置されており、キャッシュ・フローも黒字で当年度純利益が生じていることから、短期的な資金不足の問題はないと考えられる。

(2) 意見

芦屋市下水道事業においては、経営・資産の状況を的確に把握し経営の効率化と健全化を図るため、平成30年度より地方公営企業法の財務規定等の適用を受ける公営企業会計を導入した。また、投資及び財源の両面から調整された中長期的な経営基本計画である「芦屋市下水道事業経営戦略」を平成30年度に策定し、事業投資の平準化を行うなど事業経営の安定化が図られている。

下水道事業は市民の生活排水の処理だけにとどまらず、浸水被害軽減のための雨水貯留施設の設置、水質環境改善のための高度処理施設の整備、大規模地震に備えた施設の耐震化など、多岐にわたる事業があるが、これらの事業を実施するための管渠や施設の維持管理と更新には莫大な資金が必要である。

このため、管渠や施設の老朽化の現状と人口減少に伴う下水道使用料の減少予測、そして施設整備計画など上記「芦屋市下水道事業経営戦略」の内容について市民に分かり易く説明することが重要であると考え。なお、令和元年度に下水道事業の市民向け啓発活動として、市内小学生及びその保護者を対象に行った下水道フェスタは、市民に下水道事業の仕組みを理解し関心を高めてもらうために効果的であると評価する。

下水道事業は、市民生活や経済活動に欠くことができない重要なインフラであるため、浸水被害を軽減するための雨水施設の増強や、重要度の高い施設の耐震化など、災害時においても安定的に機能する下水道施設の整備に努めるとともに、受益者負担の原則に基づく下水道使用料の確保など、引き続き「芦屋市下水道事業経営戦略」に基づいた安定かつ持続的な事業を実施するよう努められたい。

以上

決 算 審 査 資 料

(下 水 道 事 業 会 計)

第 1 表 業務実績表 7 5

第 2 表 損益計算書年度比較表 7 6

第 3 表 貸借対照表年度比較表 7 8

第 1 表 業 務 実 績 表

下水道事業

| 区 分 | 令和元年度 | 平成30年度 | 対前年度増減 | 増減率 | 備 考 |
|----------------------------|------------|------------|-------------|-------|---|
| 現在処理区域面積 (ha) | 1,124 | 1,124 | 0 | 0.0 | 年度末現在 |
| 全体計画人口 (人) | 97,600 | 97,600 | 0 | 0.0 | 芦屋市公共下水道全体計画による処理人口 |
| 行政区域内人口 (人) | 95,443 | 95,488 | △ 45 | 0.0 | 年度末現在 |
| 水洗化率 (%) | 100.0 | 100.0 | 0 | — | $\frac{\text{現在水洗便所設置済人口}}{\text{現在処理区域内人口}}$ |
| 現在水洗便所設置済人口 (人) | 95,443 | 95,488 | △ 45 | 0.0 | 年度末現在 |
| 現在処理区域内人口 (人) | 95,443 | 95,488 | △ 45 | 0.0 | 年度末現在 |
| 有収率 (%) | 70.0 | 70.6 | △ 0.6 | — | $\frac{\text{年間有収水量}}{\text{年間汚水処理水量}}$ |
| 年間有収水量 (m ³) | 10,461,311 | 10,544,060 | △ 82,749 | △ 0.8 | 年間有収水量 |
| 年間汚水処理水量 (m ³) | 14,946,163 | 14,926,319 | 19,844 | 0.1 | 年間汚水処理水量 |
| 計画処理能力 (m ³ /日) | 62,000 | 62,000 | 0 | 0.0 | 芦屋市公共下水道事業計画による処理能力 |
| 年間総処理水量 (m ³) | 17,049,696 | 18,731,766 | △ 1,682,070 | △ 9.0 | 年間総量 |
| 1日平均処理水量 (m ³) | 46,584 | 51,320 | △ 4,736 | △ 9.2 | $\frac{\text{年間有収水量}}{\text{年間日数}}$ |
| 経費回収率 (%) | 108.2 | 110.6 | △ 2.4 | — | $\frac{\text{下水道使用料}}{\text{汚水処理費}}$ |
| 下水道使用料 (千円) | 954,435 | 972,597 | △ 18,162 | △ 1.9 | 下水道使用料収入 |
| 汚水処理費 (千円) | 881,982 | 879,730 | 2,252 | 0.3 | 汚水処理に要する経費 |
| 下水道管布設延長 (m) | 321,421 | 321,355 | 66 | 0.0 | 年度末現在 |
| 職員数 (人) | 20 | 19 | 1 | 5.3 | 年度末現在 |

(注) 単位が%の場合、比率の数値は、各算式×100である。

第 2 表 損 益 計 算 書 年 度 比 較 表

下水道事業

| 区 分 | 借 | | 方 | |
|-----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|--------------|
| | 令和元年度 | 平成30年度 | 増 減 額 | 対前年 度比率 |
| | 金 額 | 金 額 | | |
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 1 営業費用 | 2,465,764,585 | 2,462,422,360 | 3,342,225 | 100.1 |
| (1) 管渠費 | 166,348,516 | 156,362,455 | 9,986,061 | 106.4 |
| (2) 芦屋下水処理場費 | 438,143,577 | 439,450,402 | △ 1,306,825 | 99.7 |
| (3) 南芦屋浜下水処理場費 | 76,846,978 | 78,865,794 | △ 2,018,816 | 97.4 |
| (4) 抽水場費 | 60,811,316 | 77,224,567 | △ 16,413,251 | 78.7 |
| (5) 受託事業費 | 1,033,519 | 20,625,859 | △ 19,592,340 | 5.0 |
| (6) 総係費 | 103,349,615 | 106,776,696 | △ 3,427,081 | 96.8 |
| (7) 減価償却費 | 1,584,671,006 | 1,571,864,870 | 12,806,136 | 100.8 |
| (8) 資産減耗費 | 34,560,058 | 11,251,717 | 23,308,341 | 307.2 |
| 2 営業外費用 | 222,329,692 | 227,638,628 | △ 5,308,936 | 97.7 |
| (1) 支払利息及び 企業債取扱諸費 | 179,196,682 | 196,651,669 | △ 17,454,987 | 91.1 |
| (2) 雑支出 | 43,133,010 | 30,986,959 | 12,146,051 | 139.2 |
| 3 特別損失 | 356,419 | 41,607,836 | △ 41,251,417 | 0.9 |
| (1) 過年度損益修正損 | 356,419 | 227,287 | 129,132 | 156.8 |
| (2) その他特別損失 | 0 | 41,380,549 | △ 41,380,549 | 皆減 |
| 当期純利益 | 467,920,676 | 298,974,963 | 168,945,713 | 156.5 |
| 合 計 | 3,156,371,372 | 3,030,643,787 | 125,727,585 | 104.1 |

| 貸 方 | | | | |
|----------------|----------------------|----------------------|---------------------|--------------|
| 区 分 | 令和元年度 | 平成30年度 | 増 減 額 | 対前年 度比率 |
| | 金 額 | 金 額 | | |
| | 円 | 円 | 円 | % |
| 1 営業収益 | 1,687,758,619 | 1,705,277,426 | △ 17,518,807 | 99.0 |
| (1) 下水道使用料 | 954,435,458 | 972,597,052 | △ 18,161,594 | 98.1 |
| (2) 受託事業収益 | 1,410,626 | 17,551,118 | △ 16,140,492 | 8.0 |
| (3) 他会計負担金 | 719,781,000 | 713,175,000 | 6,606,000 | 100.9 |
| (4) その他営業収益 | 12,131,535 | 1,954,256 | 10,177,279 | 620.8 |
| 2 営業外収益 | 1,466,013,514 | 1,325,366,361 | 140,647,153 | 110.6 |
| (1) 補助金 | 502,233,000 | 380,216,000 | 122,017,000 | 132.1 |
| (2) 長期前受金戻入 | 963,461,225 | 943,435,975 | 20,025,250 | 102.1 |
| (3) 雑収益 | 319,289 | 1,714,386 | △ 1,395,097 | 18.6 |
| 3 特別利益 | 2,599,239 | 0 | 2,599,239 | 皆増 |
| (1) 過年度損益修正益 | 2,599,239 | 0 | 2,599,239 | 皆増 |
| 合 計 | 3,156,371,372 | 3,030,643,787 | 125,727,585 | 104.1 |

第 3 表 貸 借 対 照 表 年 度 比 較 表

下水道事業

| 区 分 | 借 | | 方 | | 増 減 額 | 対前年 度比率 |
|---------------|-----------------------|--------------|-----------------------|--------------|------------------------|--------------|
| | 令和元年度 | | 平成30年度 | | | |
| | 金 額 | 構 成 比 率 | 金 額 | 構 成 比 率 | | |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 1 固定資産 | 31,743,249,288 | 97.2 | 32,878,901,736 | 98.0 | △ 1,135,652,448 | 96.5 |
| (1) 有形固定資産 | 31,728,227,071 | 97.2 | 32,863,147,097 | 97.9 | △ 1,134,920,026 | 96.5 |
| ア 土地 | 4,881,386,780 | 15.0 | 4,881,386,780 | 14.5 | 0 | 100.0 |
| イ 建物 | 1,469,392,975 | 4.5 | 1,434,346,020 | 4.3 | 35,046,955 | 102.4 |
| ウ 構築物 | 23,080,739,244 | 70.7 | 23,889,088,228 | 71.2 | △ 808,348,984 | 96.6 |
| エ 機械及び装置 | 2,286,514,604 | 7.0 | 2,627,347,872 | 7.8 | △ 340,833,268 | 87.0 |
| オ 車両運搬具 | 2,962,582 | 0.0 | 2,649,823 | 0.0 | 312,759 | 111.8 |
| カ 工具器具及び備品 | 7,230,886 | 0.0 | 6,554,299 | 0.0 | 676,587 | 110.3 |
| キ 建設仮勘定 | 0 | 0.0 | 21,774,075 | 0.1 | △ 21,774,075 | 0.0 |
| (2) 無形固定資産 | 15,022,217 | 0.0 | 15,754,639 | 0.1 | △ 732,422 | 95.4 |
| ア 施設利用権 | 15,022,217 | 0.0 | 15,754,639 | 0.1 | △ 732,422 | 95.4 |
| 2 流動資産 | 900,401,738 | 2.8 | 687,432,452 | 2.0 | 212,969,286 | 131.0 |
| (1) 現金預金 | 789,687,931 | 2.4 | 576,430,509 | 1.7 | 213,257,422 | 137.0 |
| (2) 未収金 | 110,713,807 | 0.4 | 111,001,943 | 0.3 | △ 288,136 | 99.7 |
| 資産合計 | 32,643,651,026 | 100.0 | 33,566,334,188 | 100.0 | △ 922,683,162 | 97.3 |

| 区 分 | 貸 | | 方 | | 増 減 額 | 対前年 度比率 |
|------------|-----------------|------------|----------------|------------|-----------------|------------|
| | 令和元年度 | | 平成30年度 | | | |
| | 金 額 | 構 成 比 率 | 金 額 | 構 成 比 率 | | |
| | 円 | % | 円 | % | 円 | % |
| 1 固定負債 | 8,796,736,559 | 26.9 | 9,274,941,726 | 27.6 | △ 478,205,167 | 94.8 |
| (1) 企業債 | 8,787,507,572 | 26.9 | 9,270,735,726 | 27.6 | △ 483,228,154 | 94.8 |
| (2) 引当金 | 9,228,987 | 0.0 | 4,206,000 | 0.0 | 5,022,987 | 219.4 |
| 2 流動負債 | 1,004,223,227 | 3.1 | 1,186,325,052 | 3.6 | △ 182,101,825 | 84.6 |
| (1) 企業債 | 830,628,154 | 2.6 | 830,338,284 | 2.5 | 289,870 | 100.0 |
| (2) 未払金 | 139,567,314 | 0.4 | 344,091,591 | 1.0 | △ 204,524,277 | 40.6 |
| (3) 引当金 | 14,361,000 | 0.0 | 10,279,000 | 0.1 | 4,082,000 | 139.7 |
| (4) 預り金 | 19,666,759 | 0.1 | 1,616,177 | 0.0 | 18,050,582 | 著増 |
| 3 繰延収益 | 17,427,789,769 | 53.4 | 18,158,086,615 | 54.1 | △ 730,296,846 | 96.0 |
| (1) 長期前受金 | 19,308,309,001 | 59.1 | 19,095,119,500 | 56.9 | 213,189,501 | 101.1 |
| (2) 収益化累計額 | △ 1,880,519,232 | △ 5.7 | △ 937,032,885 | △ 2.8 | △ 943,486,347 | 200.7 |
| 負債計 | 27,228,749,555 | 83.4 | 28,619,353,393 | 85.3 | △ 1,390,603,838 | 95.1 |
| 1 資本金 | 2,197,396,493 | 6.7 | 1,898,421,530 | 5.7 | 298,974,963 | 115.7 |
| 2 剰余金 | 3,217,504,978 | 9.9 | 3,048,559,265 | 9.0 | 168,945,713 | 105.5 |
| (1) 資本剰余金 | 2,749,584,302 | 8.4 | 2,749,584,302 | 8.1 | 0 | 100.0 |
| (2) 利益剰余金 | 467,920,676 | 1.5 | 298,974,963 | 0.9 | 168,945,713 | 156.5 |
| 資本計 | 5,414,901,471 | 16.6 | 4,946,980,795 | 14.7 | 467,920,676 | 109.5 |
| 負債・資本合計 | 32,643,651,026 | 100.0 | 33,566,334,188 | 100.0 | △ 922,683,162 | 97.3 |

(注) 1 有形固定資産のうち、償却資産については直接控除方式によって表示している。
元年度減価償却累計額 … 建物155,719,540円, 構築物2,156,253,776円, 機械及び装置838,685,628円,
車両運搬具1,529,762円, 工具器具及び備品1,291,626円
30年度減価償却累計額 … 建物78,043,873円, 構築物1,074,129,948円, 機械及び装置417,439,660円,
車両運搬具764,881円, 工具器具及び備品645,813円
2 未収金は、貸倒引当金の額(元年度 5,470,647円, 30年度 4,737,393円)を差し引いた後の額である。